



校長室だより

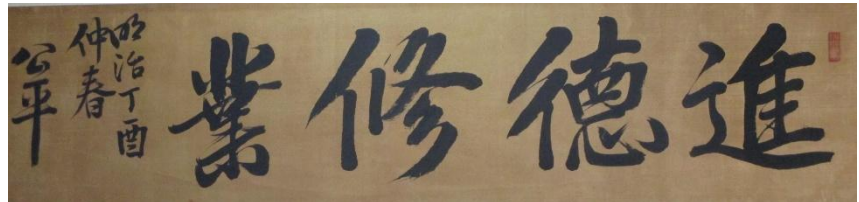
2026年7月14日
丹波市立進修小学校長

153年目の創立記念日を迎えて

本日、7月14日は進修小学校の**創立記念日**です。本校は1873年（明治6年）に流泉寺の「周文舎」として産声を上げて以来、今年で**153年目**という輝かしい歴史の歩みを進めています。この記念すべき日にあたり、地域の先人たちが子どもたちの教育に込めた熱い思いと、本校の誇るべき伝統を改めて振り返りたいと思います。

1. 「進徳修業」に込められた校名の誇り

本校は、市内の小学校でも珍しく**地名**を採用していない学校です。明治時代、当初は「崇徳（すとく）小学校」という名



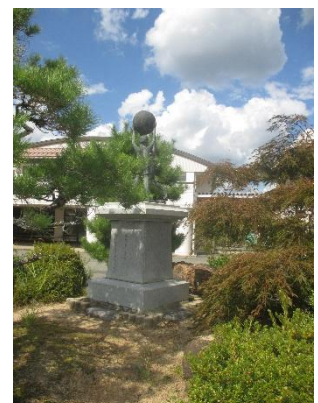
でしたが、それが天皇の名であることを指摘され、1888年（明治21年）に現在の「進修」へと改称されました。この名は、中国の古典『易経』の一節「君子特に進み業を修む」に由来しています。ここには「進徳修業（しんとくしゅうぎょう）」、すなわち「進んでよいことを行い、しっかり学びましょう」という、いつの時代も変わらない教育の真理が込められています。

2. 「教育村」の象徴、学田（がくでん）の歴史



明治時代、授業料が高くすべての子どもが学校に通えるわけではありませんでした。当時の国領村長・**上田捨蔵氏**と初代校長・**玉島常太郎先生**は、「すべての子どもに教育を」と願い、学校が自ら資金を持つための「学田」創設を計画しました。この熱意に地

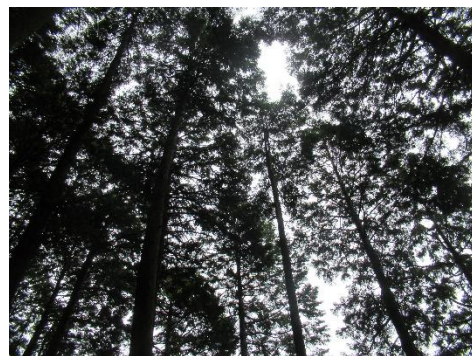
域の方々が応え、自らの田畑を寄付してくださったことで、1896年（明治29年）には授業料の廃止が実現しました。この無私（みせ）の精神により、本校は兵庫県内でも有数の「教育村」としてその名を知られるようになったのです。



3. 次世代へつなぐ「キコリン山」と校章の絆

本校のもう一つの宝が、学校林である「キコリン山」です。これは1962年（昭和37年）、創立90周年を記念して上田確郎氏より「学校の役に立ててほしい」と寄付されたものです。2008年には当時の3年生が、自然への愛着を込めてこの名を付けました。また、1948年（昭和23年）に制定された校章にも、地域の絆が刻まれています。中央の「進」を囲む9つの「コ」で「国（コク）」、外形の菱形で「領（リョウ）」、合わせて「国領」を表し、さらに4つの区（国領、棚原、東中、柚津）と小学校の「小」をデザイン化したものです。

結びに：150周年から未来へ



3年前の創立150周年記念行事では、地域や保護者の皆様と共に色とりどりのバルーンを空へ飛ばしました。その風船は遠く三重県松阪市まで届き、温かな交流の輪を広げました。先人たちが築き上げた「子どもを思う情熱」を胸に、本校はこれからも地域と共に歩み続けてまいります。今後とも、進修小学校の教育活動へのご理解とご協力をよろしく お願い申し上げます。

